

令和7年度学校自己評価システムシート（県立大宮武蔵野高等学校）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	1 高い目標を持ち、自らの夢を実現できる生徒を育成する学校 2 社会で活躍できる生徒を育て、地域が誇れる学校
重点目標	1 学力の向上を目指した、生徒一人ひとりに適した授業改善の取組 2 第一志望実現に向けた系統的な進路指導の確立 3 基本的生活習慣の確立とマナーアップ、生徒の主体的な活動の一層の充実 4 地域貢献・連携ができ、地域に信頼される生徒の育成

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校評議員	3名
	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度目標達成を意味する。)は複数設定可。※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(令和8年1月20日現在)			実施日 令和8年3月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・生徒アンケート(肯定的回答) 「興味関心をもって授業に臨んでいる」前年度比4%増 「授業の速度に追いついている」2%増 【課題】 ・改善がみられる中、「授業以外で全く勉強しない」と答えた生徒が、41%いる。主体的に学びに向かう姿勢を、より働きかけていく必要がある。	わかりやすい授業に向けた改善と主体的に学ぶ生徒の育成	①授業公開週間を年2回設定して、各教科で授業改善のための意見交換を行うとともに、様々な学力層の生徒に対応した、各生徒が小さな成功体験を感じるような授業を実施する。(継続)【教務部・各教科】 ②学びへの興味関心を高め、主体的な学習に向けた支援するための補習や検定、一人一台端末の活用、その他教育課程外の探究活動を積極的に実施する。【各分掌・各教科】	①生徒アンケート「授業のわかりやすさ」「入学して良かった」の数値が向上したか。(数値の推移) ②各教科・分掌の取組により、補習や検定の受検状況がさらに向上し、端末利用等による生徒の探究活動が活発に行われたか。(観察・数値の推移)	①授業公開週間を6月と11月に設定した。教科ごとに意見交換が実施されたが、全体で共有できなかった。12月生徒アンケートより(肯定的回答) ・授業の分かりやすさ(R6:86% → R7:86%) ・入学してよかった(R6:75% → R7:78%) ②学びへの興味・関心を高めるため、ICTを活用し視覚的に理解を促す事やICTツールを活用した発表、調べ学習などを実施した。	A	12月生徒アンケート(肯定的回答) ・授業の速度に追いついている 91%↑ ・興味関心をもって授業に臨んでいる 94%↑ ・基礎学力が向上している 96%↑ ・授業以外で全く勉強しない 38%↓ 日々の授業から成果を実感できる生徒が増加した。自らが「何かを学びたい」と考えるような環境づくりを検討する。	・「授業に追いついているか」の問いに対して、授業での学びが実生活にどの程度落とし込めているのか、結びついているのかが分かる点よい。アンケートの質問内容を具体的にする。
2	【現状】 ・約90%が進路を決定した。 ・生徒アンケート 「夢や希望があり努力している」4%増 【課題】 ・取組の見直しを継続し、生徒のキャリア意識・自己理解を深めるとともに、生徒理解に基づいた進路相談の充実が求められる。	キャリア意識の育成と生徒理解に応じた進路指導の実現	①HR・総合的な探究の時間等を活用して、特に職業観・勤労観を重視しながらキャリア意識を育成し、進路選択につなげていく。面談等を活用し、学校生活を充実させることから進路意識を涵養する。【進路指導部・各学年】 ②進路資料室や図書館が積極的に利用されるよう促進する。(継続)【進路指導部・図書視聴覚部】	①生徒進路希望調査において進路未決定者が年度内で減少したか。(数値の推移) ②授業内外で進路資料室や図書室を活用する場面が増えたか。(取組・観察)	①生徒のキャリア段階に応じた定期的なガイダンスの実施により、自己理解や自分の進路に対する意識を高めた。 3学年の進路決定率98% 進路未決定者は前年度の約半数 ②必要な場面で図書委員活動や授業を機会に図書室の利用を促したため、活用する生徒も見られたが、頻度は少ない。	A	12月生徒アンケート(肯定的回答) ・夢や希望があり努力している81%↑(R6:75%) 目的意識を持ち学校生活を過ごす生徒が多い。生徒の挑戦したい気持ちや、見通しをもって進路決定ができるよう環境整備を充実させていく。新聞等を活用することで世の中と自分を繋げるなど、有効な図書館の授業利用がされるよう、今後も継続していきたい。	・高校生活1年1年、確実に成長していると、生徒自身も親も感じている。進路についても真剣に考え、1年次から夢が変わってくることもある。親は変化を理解し、協力してあげられたら良いと思う。そのためには、親が子どもや学校生活に目が向くよう、学校からの情報提供や進路行事への参加ができることと有難い。
3	【現状】 ・挨拶を進んでする生徒の増加がみられ、校外マナーに対する意識の向上も見られた。指摘件数は例年並。 ・生徒アンケート 「学校外でのマナー意識」4%増 【課題】 ・安心安全な学校づくりを継続することに加え、保護者との共通理解による協力体制を維持しながら学校生活への意欲を喚起する教育活動の工夫を進めたい。	生徒の主体的な行動の啓発とマナーアップ	①挨拶の励行を継続し対人関係力を育てるとともに、「気づいたらその場で指導する」日常的な声掛け、「生徒の心を動かす」指導によるマナーアップを図る。【生徒指導部・各学年】 ②生徒情報を共有したうえで、自己管理する力を育むことで、生徒が自己を肯定し、目標を達成しようとする態度を育てる。【生徒指導部・保健管理部・各学年・特別活動指導部】	①生徒アンケートにおける学校外でのマナー意識に係る項目の回答が向上し、校外マナーに対する指摘件数が減少したか。(数値の推移) ②丁寧な指導を継続し、生徒の態度が変容したか(取組・観察)	①校外におけるマナー意識は高まっている。12月生徒アンケートより(肯定的回答) ・学校外でのマナー意識(R6:83% → R7:87%) ②目線を合わせて挨拶できる生徒が増えたが、特定の生徒による遅刻がある。 細かな気付きを生徒に伝え、一時的に正されるが継続的な視点で指導する必要がある。 校外でのマナーアップについては、全体に向けて注意喚起を行う必要が複数回あった。	B	12月アンケート(「よくあてはまる」との回答) ・学校は基本的生活習慣の確立に十分に取り組んでいる 生徒49% 保護者22% ・安全・安心な学校生活を送っている。 生徒60% 保護者20% 今後も保護者・地域との共通理解による協力体制を維持しながら安心安全な学校づくりを継続する工夫を行っていく。	・保護者と生徒のアンケート結果の差について、開きが大きい。生徒と保護者の間には感じ方の違いがあるのではないかと。生徒が感じる「良い」と保護者が感じる「良い」には差があり、それを埋める必要が感じられる。親子で共通の学校話題をテーマに、子どもの考えていることのブレを家庭での話し合いで修正する機能を持たせることも必要ではないかと。 ・しつけを学校に委ねる保護者もいる時代、保護者の方に学校理解を深めてもらう必要あり。
	【現状】 ・部活動継続率は減少傾向。・分校交流事業に参加した生徒全員が「楽しかった」と回答。 ・生徒アンケート「学校行事が充実」5%増 【課題】 ・引き続き行事・部活動を充実させ、学校生活への満足度を向上させたい。	生徒の主体性を育てる活動の充実	①部活動に意欲的に取り組む態度を育て、活動を活性化させる。(継続)【部活動推進委員会・特別活動指導部・各学年】 ②生徒間、教職員と生徒、分校との交流の機会を増やし、生徒が役割意識を持つよう働きかける行事を実施することで、生徒の自己有用感を高める。(継続)【特別活動指導部・部活動推進委員会】	①部活動継続率の前年度比。部活動の活動状況が充実したか。(数値の推移・取組) ②生徒アンケートにおける各行事の満足度・「入学して良かった」の前年度比。(数値の推移)	①部活動の加入率 R7全体:前期:50.5% → 後期:48.7% R71年生: 58.1% → 52.3%(5.8%減) ②文化祭実施後アンケートより ・82.3%が、「満足した・概ね満足した」と回答 12月生徒アンケートより(肯定的回答) ・学校行事の充実度(R6:76% → R7:79%) ・学校行事への参加意欲(R6:96% → R7:96%)	B	生徒アンケート 「学校行事の充実度」は上昇が続いている。分校との交流は昨年に引き続き活発に行われた。分校生の主体性も尊重し、共同開催できるものは引き続き連携しながら行いたい。 部活動継続率の向上を目標に働きかけを行っていく方針は今後も継続し、学校全体が部活動を応援している機運を高めていく。	・アンケート結果を生徒や保護者にフィードバックすることが必要。保護者・生徒の意見を考察し活用することで、学校生活がより充実したものになるのではないかと。
4	【現状】 ・地域・PTAとの積極的な協働・学校説明会の参加者数は増加。ただし志願希望者数は例年並。 【課題】 ・効果的に中学生及びその保護者にPRする方法を具体的に検討する。 ・今後も地域が誇れる学校を目指して密接な関係を持続し、双方の課題を共有して改善を検討していく。	生徒募集活動の充実と地域貢献を通じた信頼される学校づくりの推進	①組織的に生徒募集活動を工夫・改善し、本校をアピールする手段を講じる。(継続)【教務部・部活動推進委員会】 ②PTA行事の時期・内容の見直しを行い、主体的に参加しやすい活動とする。(継続)【渉外部】 ③行事への参加や学校評議員会・自治会との懇談会等における地域課題の共有を通して、地域との密接な交流を行う。(継続)【部活動推進委員会・各分掌・各分掌】	①学校説明会の参加者数及び志願希望者数の前年度比。(数値の推移) ②PTA行事の実施状況が充実したか。(取組) ③地域行事や交流事業に積極的に参加できたか。(観察)	①学校説明会参加者数:773人 志願者数:R7:246/238名(1.02倍) R8:196/198名(0.99倍) ②PTA各専門部が分担し、各行事のサポートに入ってもらい、学校行事を運営できた。 ③50周年記念式典や事業を卒業生や地域と連携しながら実施した。避難所訓練についても生徒と共に実施した。	B	定期的なHPの更新による、多くの方々に大宮武蔵野高校を発信するよう意識する。 地域や連携が活発な交流を継続中。今後も地域が誇れる学校を目指して密接な関係を維持し、双方の課題を共有して改善を検討していく。	・避難所の訓練を近隣学校と協働して同時開催できるといい。災害の状況に応じて開設する学校が変わる。また、災害の規模や必要状況に応じて地域で連携し、より実践的な避難所開設訓練ができると良い。

